

2012 年 8 月 14 日 オホーツク海南部の地震 — 遠地実体波による震源過程解析（暫定） —

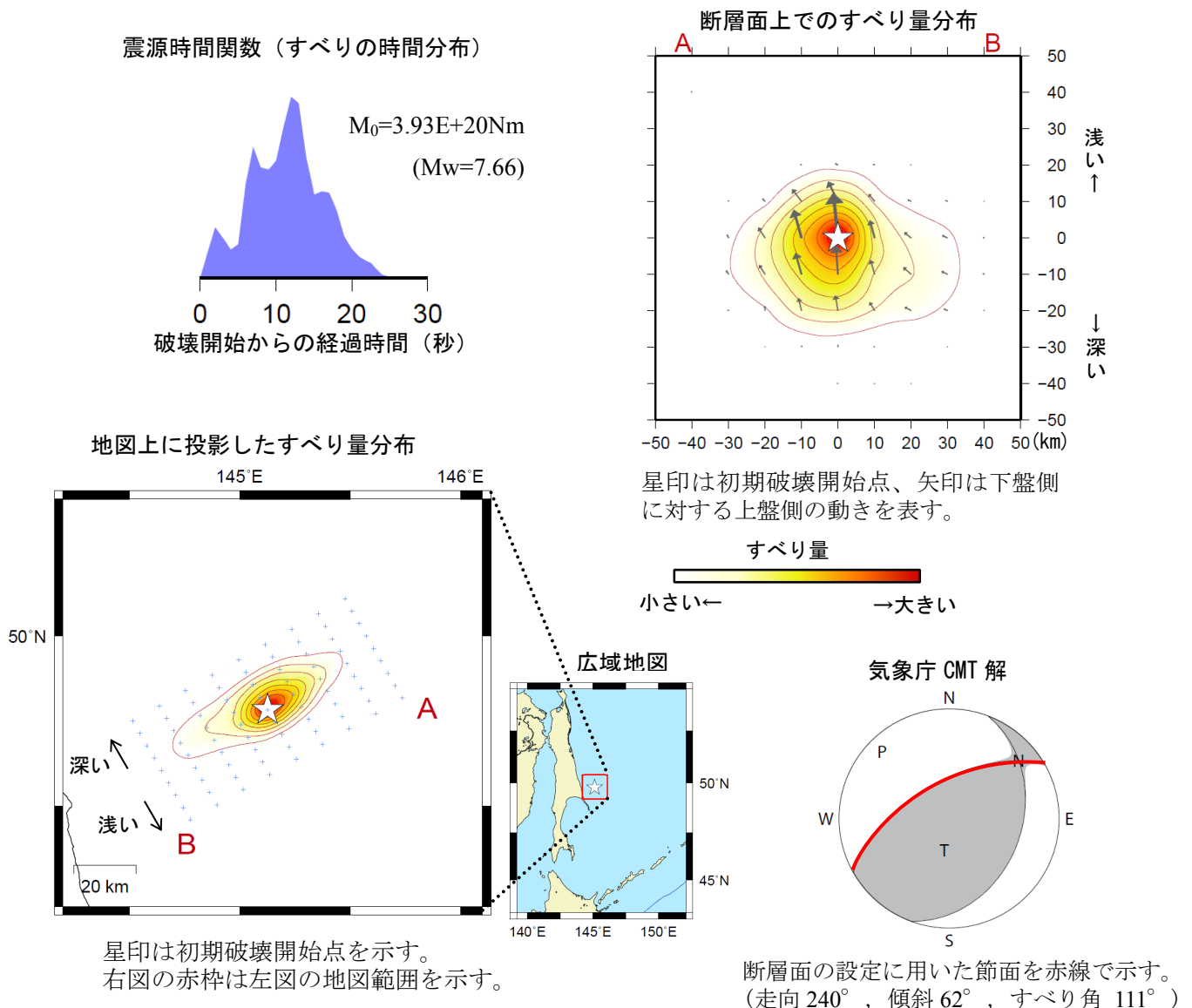
2012 年 8 月 14 日 11 時 59 分（日本時間）にオホーツク海南部で発生した地震について、米国地震学連合（IRIS）のデータ管理センター（DMC）より広帯域地震波形記録を取得し、遠地実体波を用いた震源過程解析（注 1）を行った。

初期破壊開始点は、USGS による震源の位置（49° 47.0′ N, 145° 07.6′ E, 深さ 625km）とした。断層面については、気象庁 CMT 解の 2 枚の節面を仮定して解析を行ったが、どちらも結果に大きな差は無かった。今回は北西落ちの節面を断層面とした。

主な結果は以下のとおり（この結果は暫定であり、今後更新することがある）。

- ・断層の大きさは長さ約 60km、幅約 40km であった。
- ・主なすべりは初期破壊開始点付近にあり、最大のすべり量は 4.5m であった。（剛性率を 120 GPa とし て計算）。
- ・破壊継続時間は約 25 秒であった。
- ・モーメントマグニチュード（ M_w ）は 7.7 であった。

結果の見方は、http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/sourceprocess/about_srcproc.html を参照。



（注 1）解析に使用したプログラム

M. Kikuchi and H. Kanamori, Note on Teleseismic Body-Wave Inversion Program,

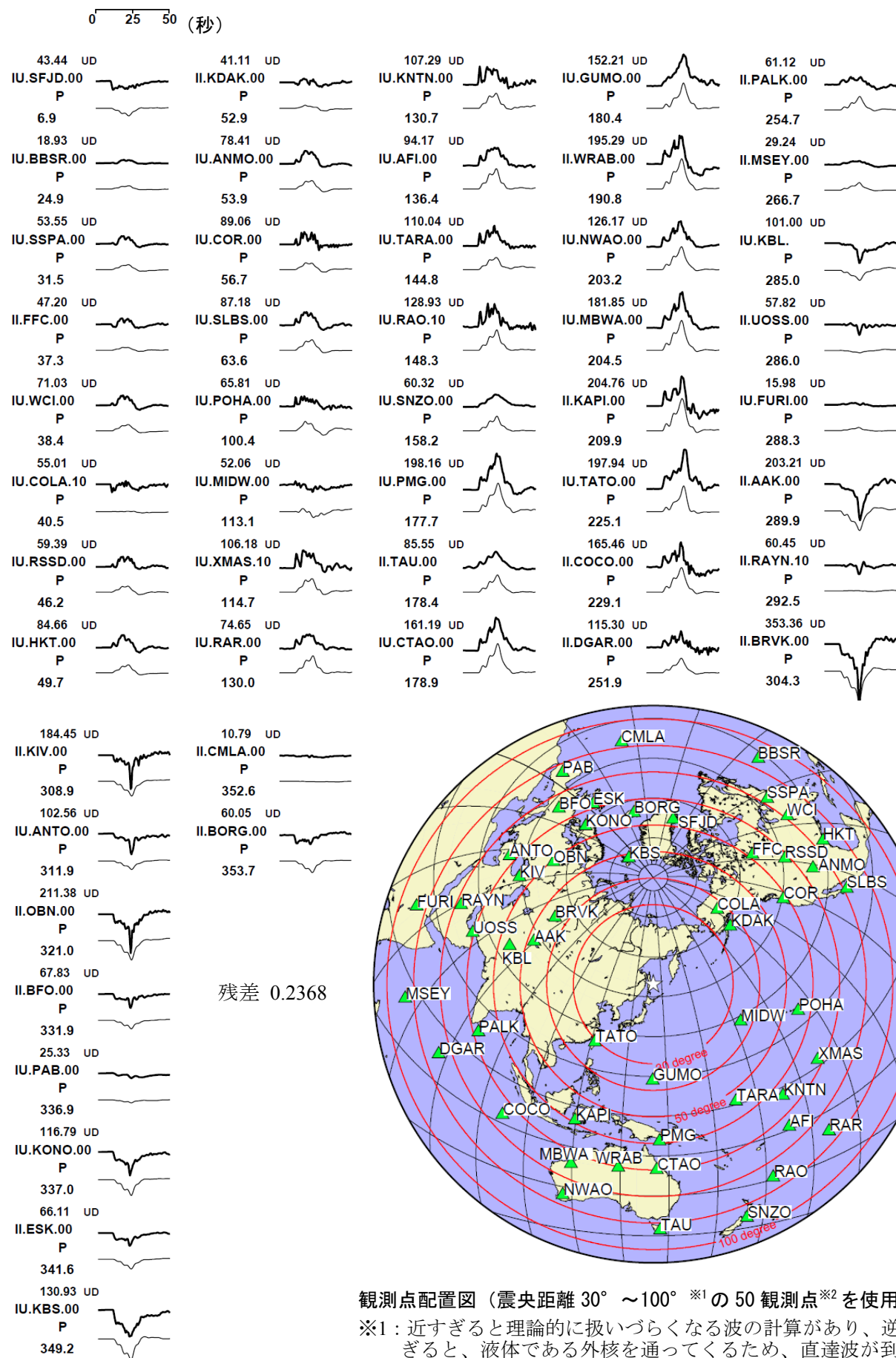
<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/ETAL/KIKUCHI/>

作成日：2012/08/24

更新日：2016/02/29

気象庁作成

観測波形（上：0.004Hz-1.0Hz）と理論波形（下）の比較



気象庁作成